

同窓会会報

発行

鹿児島大学教育学部
同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
電話099-285-7711

待望の同窓会名簿完成

会の充実発展を目指して



出来上がった同窓会名簿

鹿児島大学教育学部同窓会は、鹿児島大学創立五十周年を目前にした平成十年一月に発足した。同窓会には名簿がつきものであるが、当初からなかつたため、翌十一年二月の第二回総会で、「同窓会名簿作成事業」が決議された。早速、十二名の作成委員が選出され、第一回作成委員会が同年五月に開かれた。委員長に犬馬場茂氏(昭和二十七年卒)、副委員長に福島嘉久氏(同三十五年卒)

を選出し活動が始まった。委員会では名簿作成計画のスケジュール、内容が検討された。作業の第一歩として、卒業生名簿の収集作業の分担を決め、収集方法や予想される問題、留意事項等が協議された。各委員はそれぞれ学年の名簿収集を担当するが、雲をつかむような作業のスタートとなった。学年、小・中学校課程、教科によって同学年等の同窓会が開かれているため、名簿収集は容易だが、そのほかの同窓会ほとんど開かれておらず、委員たちは手探りで収集に当たっていた。五月から十月まで毎月一回、委員会が開かれ、各委員独自の収集方法や、名簿

を持ち寄っての作業の進捗状況が発表され、問題点の解決方法が協議された。また、姓名の変更、卒業年度の不明、所在不明者の探し方などが検討された。半年という短い期間だったが、委員会では卒業生の八・九割の名簿が収集された。しかし、不明者もまだ多く、最終的には卒業生台帳を基に、不明者は空白にし、今後期待することにした。

こうして、平成十二年三月、待望の同窓会名簿が発行されたが、完成までに学部や卒業生有志の絶大な支援があった。グラビア、松元兼俊会長の「発刊のことば」、坂尾隆教育学部部長の「同窓会名簿の発刊のことば」と続き、学部の沿革、会則、学部の現況、歴代教育学部長、退官・転出者、特別会員の後に会員名簿が掲載されている。名簿はB5判、三三五頁で一千五百部製作。会則による終身会費一万円を納入してくださった卒業生に贈呈されている。

同窓会活動を充実・発展させるために、卒業生の会費納入をお願いしています。

「二万人近い卒業生名簿を作成せよ」との至上命令に、集まった名簿作成委員たちは一様に戸惑いを感じながら、具体的な方向性を掴めないままのスタートでした。まず、各委員自身の卒業年度を中心に作成の準備に取り掛かりました。とにかく粉骨砕身、力の限り、献

身的な努力の必要性を、回を重ねることに感じ取りながら、ただひたすら前へ進む以外ありませんでした。作成過程の中で、卒業生の居住に関する情報の入手が思うようにできないのが最大の難点でした。また、卒業生の中には既に退職なさった方、教育現場の方、住の方等々、職業も多種多様なので、より一層の困難をきたしました。

と。①既存の年度ごとの卒業生同窓会名簿の収集(同窓会が結成されていないクラスもあった) ②NTTより、全県下の電話帳を収集しての電話作戦。 ③卒業生の出身高校へ出向いての卒業生名簿収集。 ④県内外を問わず、知人と連絡による資料収集。 ⑤卒業台帳の確認。(教育学部事務当局の献身的な協力に感謝) ⑥県外で同窓会を結成しているグループへの名簿送付依頼。 その他ありますが、その他まだありますが、

あらん限りの手段・方法を講じて進めて参りました。特に、教育学部事務当局には、大変なお骨折りをいただきました。完成した同窓会名簿をご覧になった方々から、お礼の言葉をいただきました。また、多くの苦情も承りました。百パーセント完全な名簿ではなかったかもしれませんが、今までの取り組みを謙虚に反省して、改善していかなければならないと思っております。ご協力ありがとうございました。

鹿児島大学教育学部同窓会が発足して二年たちました。それまでの経緯については既に案内のとおりであり、実はこちらから先が大変シンドイことだと観念いたしております。

同窓会の運営に欠くことのできない会員名簿は、とにかく上梓できました。二万人近い卒業生の名簿を短期間で、しかも仕事の合間を縫って可能な限り正確に情報収集に努め、どの学部の

必要などころがあるという点は重々承知いたしております。しかし、プロの業者ではなく、全くの素人集団が同窓会の発足に当た

り、まず名簿作成が必須条件として、とにかく真正面から真摯に取り組んで頂いた。これは、まさにボランティアそのものであったと必要とする人は傍観者ではないということ。同窓会につきましても、これまで本当に貴重なご意見を多く承りました。教育

と承知しているところであり、そのために、会員の皆様のご協力をお願いいたします。紀の新しい同窓会としての組織、運営等はいかにあるべきかなど模索していかなければならないと思われまふ。

遅ればせながらもせっかく出来上がったこの同窓会を、「これが同窓会なのだ」という組織になるように、衆知を集めて育てていこうではありませんか。

平成一十一年度は、鹿児島大学創立五十周年に当たって各種の記念事業が実施されました。我が教育学部同窓会といたしましても積極

的に参加することにしませんが、なにしろ発足間もないことでもあり、不十分な点があったことは否めません。それだけに、二十一世紀の新しい同窓会としての組織、運営等はいかにあるべきかなど模索していかなければならないと思われまふ。

同窓会名簿作成委員会委員会の歩み
〔平成11年〕
▽名簿作成委員の委嘱 3月5日
▽第一回名簿作成委員会 12名
5月12日
①退職者の学年別担当決定
②名簿収集方法等について
③作成事業のスケジュール
▽第二回名簿作成委員会 6月24日
①名簿収集状況と問題点
②名簿収集の重点事項
▽卒業生年次別発起人代表に現職者同窓生の名簿収集への協力を依頼 6月16日
▽第三回名簿作成委員会 7月22日
①名簿収集状況及び問題点と注意事項について
②四年制への編入者の記載方法と不明者の取り扱い
▽第四回名簿作成委員会 8月31日
①卒業台帳との照合
②現職卒業生の名簿収集の在り方について
▽理事会・支部役員会 9月26日
①現状報告と今後の対策
②出席者全員に現職同窓生の名簿収集割り当て
▽第五回名簿作成委員会 10月14日
①全学年の名簿提出完了
②名簿推敲(一回目)
▽名簿推敲(二回目) 11月12日
〔平成12年〕
▽第六回名簿作成委員会 3月3日

- ### 名簿作成委員
- 犬馬場 茂/福島 嘉久
 - 松元 兼俊/木佐貫 哲
 - 平岡 順義/池之迫 静男
 - 下園 亮子/村田 孝男
 - 海江田 幸雄/松元 桂子
 - 南 孝一/有村 勝
 - 野間 ひろみ



同窓会会長 松元 兼俊

「いま」「ここに」全力をつくす

同窓会長 松元 兼俊

同窓会活動に最もかかわりがある学部の同窓会だけに、これからはその目指すものを明確に把握し、運営していかねばならない

同窓会活動に最もかかわりがある学部の同窓会だけに、これからはその目指すものを明確に把握し、運営していかねばならない

同窓会活動に最もかかわりがある学部の同窓会だけに、これからはその目指すものを明確に把握し、運営していかねばならない

同窓会活動に最もかかわりがある学部の同窓会だけに、これからはその目指すものを明確に把握し、運営していかねばならない

同窓会活動に最もかかわりがある学部の同窓会だけに、これからはその目指すものを明確に把握し、運営していかねばならない

共々学びし友よ いざこに

共々学びし友よ いざこに

共々学びし友よ いざこに

共々学びし友よ いざこに

共々学びし友よ いざこに

共々学びし友よ いざこに

五十年という時の流れの中で

昭和28年卒 下園 亮子

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

五十年という時の流れの中で

鹿児島大学50周年記念協賛事業

Er.プッチェル作品演奏会

「七高」の音色現代に

平成十一年十一月十四日、秋深き日曜日の夜、鹿児島大学五十周年記念協賛事業「エルンスト・プッチェル作品演奏会」が鹿児島市の市民文化ホール(第一)で行われた。

溯ること一年半程前の平成十年三月末、「五十周年記念事業」で図書館長と話し合っていたのだが、中央図書館に七高のドイツ人教師の作曲した作品が在るんだって! それを五十周年記念に出版してはどうかという話になったのだが、調べてみてくれない? という島田前学部長の電話でことが始まった。調査を進める中で、「楽譜はそのまま

プッチェル氏は、昭和三年から二十年まで旧制七高のドイツ語教師を務めたドイツ人。カベル・マイスター(教会合唱長)の称号を持つ作曲家、オルガニストだった。東京音楽学校赴任の予定が縁で鹿児島へ。ドイツ語教師の傍ら、七高音楽部を指導、鹿児島の子供達にピアノを教え、此の地に音楽発展の基礎を築いた人物だった。西洋音楽希薄の昭和初期、鹿児島



旧制七高のドイツ人教師 昭和13(1938)年のプッチェル氏

寄稿

正式な決定ではないようだが、平成十三年四月から鹿児島大学教育学部から鹿児島大学教育学部教育学研究科が設置されるようである。教育学部の大学院設置にあたっては、最初から直接的、間接的に関係してきた私にとり、この完成は例えようもない程の喜びである。



放送大学客員教授 鹿児島大学教育学部教育学研究科長 島田俊秀

鹿児島大学大学院 教育学研究科の完成を祝す

教育学部は、学際も教員養成も多くの矛盾を抱えたまま大学院設立の検討に入りました。先述の諸条件を整備することは並大抵の事ではなく、苦難に満ちた時代の

では単なる紙切れにすぎない、音になって初めて作品となる! という思いが演奏会へと前進させた。昭和初期、すなわち一世紀余り昔のこと。七高そのものが戦火に焼かれ、本来学校に保存されているべき当時の資料は皆無。黎明館、県立図書館、鹿児島図書館に散在する数少ない資料と、当時の七高生の方々に記憶を辿って頂き、それらを繋ぎ合わせることに一年が過ぎた。

演奏会の内容・性質上、入場を無料にして、広く一般市民に参加を呼びかけようという企画を進めたが、資金面でたびたび暗礁に乗り上げ、途中で挫折しかかった。高岡同窓会、教育学部同窓会から各五十万円の寄付を頂き、残りは大学・学部がと

多くの方々の後押しで、新聞、テレビ、ラジオ等マスコミ各社が記事に、番組に宣伝して下さり、開催に漕ぎ着ける事が出来た。演奏会第一部は、子供が具体的にイメージを持って弾く事が出来るようにと、表題を付した平易な楽曲を作曲・出版したプッチェル氏の意図を汲み、附属小・中学校児童生徒三名によるピアノ演奏。

と弦楽四重奏による(さくら変奏曲)、ドイツ・プロテスタント・コラールをテーマに用いたピアノと弦楽合奏のコンチェルトと、盛り沢山のプログラムとなった。ヴァイオリンのソリストとして、教育学部英語科外国人教師、マリーティン・ゴウ氏(英国王立音楽院ヴァイオリン卒)に演奏して頂けた事は、七高と

とところで、昨今想像もできなかったような青少年の凶悪犯罪や不適応行動が発生している。心身共に健全な青少年を育成していくためには、優れた教師に頼る他に方法は見当たらない。教育学部は、このような社会の強い要請にこたえられる教師の育成が期待されている。

大学院教育学研究科完成のこの機会に、教育学部の更なる充実と発展を祈って止まない。その為に多くの同窓生は、支援と協力を惜しまない筈である。

と弦楽四重奏による(さくら変奏曲)、ドイツ・プロテスタント・コラールをテーマに用いたピアノと弦楽合奏のコンチェルトと、盛り沢山のプログラムとなった。ヴァイオリンのソリストとして、教育学部英語科外国人教師、マリーティン・ゴウ氏(英国王立音楽院ヴァイオリン卒)に演奏して頂けた事は、七高と

プッチェルの糸がそのまま現代に繋がりに...といった感があった。第三部は、合唱曲(宗教改革カンタータ)。最後はプッチェルを七高へ連れてきた石倉小三郎の名訳、シューマンの「流浪の民」で二時間三十分のステージを閉じた。(教育学部教授 田中京子 記)

と弦楽四重奏による(さくら変奏曲)、ドイツ・プロテスタント・コラールをテーマに用いたピアノと弦楽合奏のコンチェルトと、盛り沢山のプログラムとなった。ヴァイオリンのソリストとして、教育学部英語科外国人教師、マリーティン・ゴウ氏(英国王立音楽院ヴァイオリン卒)に演奏して頂けた事は、七高と

と弦楽四重奏による(さくら変奏曲)、ドイツ・プロテスタント・コラールをテーマに用いたピアノと弦楽合奏のコンチェルトと、盛り沢山のプログラムとなった。ヴァイオリンのソリストとして、教育学部英語科外国人教師、マリーティン・ゴウ氏(英国王立音楽院ヴァイオリン卒)に演奏して頂けた事は、七高と

と弦楽四重奏による(さくら変奏曲)、ドイツ・プロテスタント・コラールをテーマに用いたピアノと弦楽合奏のコンチェルトと、盛り沢山のプログラムとなった。ヴァイオリンのソリストとして、教育学部英語科外国人教師、マリーティン・ゴウ氏(英国王立音楽院ヴァイオリン卒)に演奏して頂けた事は、七高と

と弦楽四重奏による(さくら変奏曲)、ドイツ・プロテスタント・コラールをテーマに用いたピアノと弦楽合奏のコンチェルトと、盛り沢山のプログラムとなった。ヴァイオリンのソリストとして、教育学部英語科外国人教師、マリーティン・ゴウ氏(英国王立音楽院ヴァイオリン卒)に演奏して頂けた事は、七高と

と弦楽四重奏による(さくら変奏曲)、ドイツ・プロテスタント・コラールをテーマに用いたピアノと弦楽合奏のコンチェルトと、盛り沢山のプログラムとなった。ヴァイオリンのソリストとして、教育学部英語科外国人教師、マリーティン・ゴウ氏(英国王立音楽院ヴァイオリン卒)に演奏して頂けた事は、七高と

と弦楽四重奏による(さくら変奏曲)、ドイツ・プロテスタント・コラールをテーマに用いたピアノと弦楽合奏のコンチェルトと、盛り沢山のプログラムとなった。ヴァイオリンのソリストとして、教育学部英語科外国人教師、マリーティン・ゴウ氏(英国王立音楽院ヴァイオリン卒)に演奏して頂けた事は、七高と

平成12年度予算(案)

Table with 2 columns: 1. 収入の部 (Revenue) and 2. 支出の部 (Expenditure). Includes sub-headers for '予算(案)' and '決算書(案)'. Rows include '前年繰越', '会費', '計' and '事務経費', '会議費', '事業費', '予備費', '計'.

平成11年度決算書(案)

Table with 2 columns: 1. 収入の部 (Revenue) and 2. 支出の部 (Expenditure). Includes sub-headers for '決算書(案)'. Rows include '前年繰越', '会費', '計' and '事務経費', '会議費', '事業費', '予備費', '計'.

編集後記

第二号は同窓会名簿作成の歩みと鹿児島大学創立五十周年記念事業の一つ、エルンスト・プッチェル作品演奏会を特集しました。

同窓会名簿の完成の喜びと感謝の声が寄せられ、これをもとに卒業後始めている同窓会を開いた学年がありました。

同窓会も名実ともに活動の基ができました。二十一世紀を目前にして学校教育が変わります。少子化、核家族の中の子どもの教育に、同窓会はどうな取り組みができるでしょうか。(池之退)

鹿児島大学教育学部 同窓会会則

平成十年一月二十五日制定

- 第一条 本会は鹿児島大学教育学部同窓会と称する。
第二条 本会は会員相互の親睦、母校の発展と教育の振興を図ることを目的とする。
第三条 本会は次の会員を以て組織する。
1. 正会員 鹿児島大学教育学部卒業生、同修生、同専攻科及び同大学院教育学研究科修了生
2. 準会員 II 教育学部学生並びに大学院生
3. 特別会員 II 教育学部教職員及び旧教職員
第四条 本会は本部を鹿児島大学教育学部内に置き、支部を必要の地に置くことができる。
第五条 本会は第二条の目的を達成するため、原則として次の事業を行う。
1. 会員名簿の発行
2. 会報の発行
3. その他、本会の目的を達成するために必要な事業
第六条 本会に次の役員を置く。
会長一名 副会長二名 顧問若干名 理事若干名 監事一名 幹事若干名 支部世話役 若干名
役員は会員の中から選出する。
第七条 役員は二年とし、再任を妨げない。
顧問は学部長及び学部長
(組織)
第九條 本会は毎年総会を開き、出席者を以て成立と認める。その他必要を認められた場合に臨時総会を開く。
第十條 各支部は、四月現在を以て会員の住所、氏名、職業及び支部の状況を報告する。
第十一條 会員は、その職業及び住所等に異動を生じたとき、改姓名をした場合は、本部に報告しなければならない。
(会計)
第十二條 正会員は終身会費として金一〇、〇〇〇円を納付しなければならない。
第十三條 本会の運営に必要な経費は、終身会費及び雑収入を以てこれに充てる。
第十四條 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。
第十五條 毎年度の収支決算は、総会において報告する。
(会則変更)
第十六條 本会則の改正は、総会の決議を要する。
附則 本会則は、平成十年二月一日より施行する。
細則
1. 第四条の支部は鹿児島県揖宿、川辺、日置、北薩、出水、伊佐、始良、曾於、肝属、熊毛、大島の地区に置く。
2. 第五条第1項の会員名簿の発行、第2項の会報の発行については、状況に応じて実費を徴収する。
3. 第十二条の終身会費は入学時に徴収する。